



柔道を通して、子どもたちが  
健やかに育ってもらいたい

輝いている人

インタビュー  
Interview

今年2月、65歳以上のスポーツ選手をたたえて贈られる岡山県スポーツマスターズ賞に輝いたのが、今なお現役の柔道選手として活躍する川上勝さん（67歳）だ。

岡山県スポーツマスターズ賞は、県民の生涯スポーツ意識の高揚を目的に、岡山県が昨年度新たに制定した。川上さんは、昨年、地元岡山県で開催された第3回日本マスターズ柔道大会（65〜69歳81kg級）で優勝した功績が認められ、見事第1回目の受賞となった。

柔道をはじめたのは中学1年生のとき。「高校生の兄といっしょに始めたのですが、まだ戦後から間もないころのことでした。柔道着は当時高価だったので、兄との共用。稽古（けいこ）ではいつも兄が先に使い、その後で私が使っていましたよ」と当時のことを懐かしそうに振り返る。

本格的に柔道に打ち込むようになったのは就職してから。「県

外に転勤したとき、柔道がやりたくて、ある道場の門をたたきました。その道場の師範が、偶然、岡山県出身の著名な柔道家だったんです。同郷のよしみということもあって、熱心に指導してくれましたね。仕事との両立はたいへんでしたが、充実した選手生活を送っていましたよ」と白い歯を見せた。そのことから、出場した大会では常に高成績を残してきたという。

現在は、自宅と中央公民館総社分館で、小・中学生を対象に柔道教室を開いている。「子どもたちが柔道を通して、礼儀や他人に対する思いやりなど、心と体の鍛錬を重ね、健やかに育っていくように願っています」と熱っぽく語り、「私自身も、日々の稽古を欠かすことなく、現役の選手としてこれからはがんばります」と目を輝かせた。心・技・体、その全てを磨き極める柔道の道。生涯にわたって、これからも歩み続ける。

川上 勝さん（井尻野）

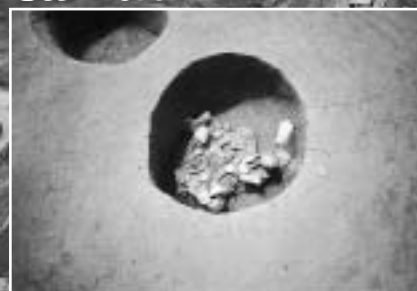
岡山県スポーツマスターズ賞に輝いた

# ミニ特集 広畑遺跡

美袋地区の古代の姿が明らかに！



## ●弥生時代



弥生時代の土壇

弥生時代の遺構としては、土壇や建物の柱を立てた穴などが確認されています。土壇には、破損した土器がまとめて捨てられていました。また、稲の穂を摘む石包丁も出土。水稻農耕が行われていたことが分かりました。  
※いろいろな用途で掘られた穴

## ●平安時代



緑色のうわぐすりを塗った土器の破片

当時、一般の集落では見られない、方形の柱穴が見つかりました。さらに、緑色のうわぐすりを塗った土器も出土しました。当時としては貴重なもので、この時代には、役所関連施設が貴族の住む屋敷などのような建物があったと考えられます。

## ●7世紀後半から鎌倉時代



鍛冶炉の跡

当時の人が使用した道具が多く出土。須恵器や土師器などの土器類のほか、鉄器や鉄滓などの鍛冶関連の遺物も多く見つかりました。炭窯や鍛冶炉もあり、鉄製品がこの地で盛んに作られていたことがうかがえます。また、このころの出土品のなかには、魚を捕

獲した網に付ける錘（おもり）が多数見つかりました。農業とともに、高梁川の恩恵を受けた漁業も盛んに行われていたことが分かりました。

また、平安時代の遺構から出土した土器には、うわぐすりが塗られたものもあり、当時としては貴重品であることから、役所的な施設の跡である可能性が高いことが分かりました。

発掘調査は、昭和中学校（美袋）の体育館の建て替えにともなう行われたものです。遺跡は、調査場所の小字名から「広畑遺跡」と名付けられました。

遺跡は、高梁川と山に挟まれた場所、周辺の土地より高地にあります。美袋地区では、古代から高梁川の氾濫（はんらん）が頻繁に起きていたと考えられ、これまで古い遺跡が存在する可能性は低いと思われていました。ところが、発掘調査を進めるにつれ、溝や柱を立てた穴から出土した土器によって、約2000年前から人が住んでいたことが分かりました。

問い合わせ 文化課文化財係  
☎928363

魚をとる網に付ける重り



※鉄製品を作るときにできる、不純物を多く含む鉄のかたまり



昨年7月に開かれた現地説明会には、たくさんの地元の人や歴史ファンが訪れました